

專 門 分 野 I

基礎看護学の考え方

基礎看護学は、専門分野Ⅱの基礎となる看護概念、基本的理論や技術を学ぶ領域である。

基礎看護学概論では看護の歴史の変遷から看護の概念を学び、先人の看護理論を学ぶことで看護の本質を考えることをねらいとするとともに、看護師に求められる倫理観を養う。基礎看護学Ⅰ・Ⅱではあらゆる場面に共通する基本技術を学ぶ。ここでは、看護技術を行う上で求められる姿勢や、技術の安全性・安楽性を理解し、観察・記録・報告、コミュニケーション、感染防止の技術を学ぶ。また、バイタルサイン測定の技術を共通基本技術に位置付け、フィジカルアセスメントの導入とした。さらに、看護過程展開の技術と指導技術も共通基本技術とした。基礎看護学Ⅲでは日常生活援助技術を学ぶ。日常生活行動の意義を知り、健康障害の程度に応じ日常生活を整えるための援助の方法を学ぶ。

基礎看護学Ⅳでは診断・治療にともなう技術を学ぶ。診療時の補助技術や身体計測、検査に伴う援助技術で構成し、特に与薬と採血と包帯法は演習を通して技術の習得をはかる。その他の治療および検査に伴う看護は、基礎看護学Ⅴ（臨床看護総論）や成人看護学、老年看護学に入れた。（巻末の看護技術マトリックス、成人・老年・経過別・疾患別・看護・教育内容マトリックス参照）

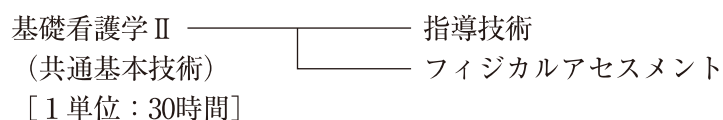
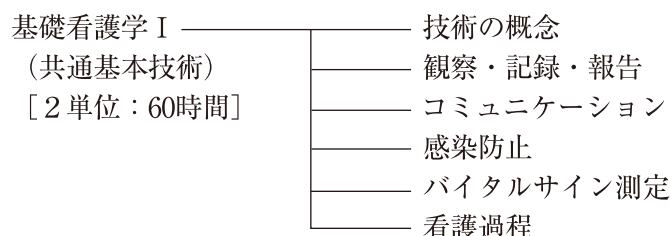
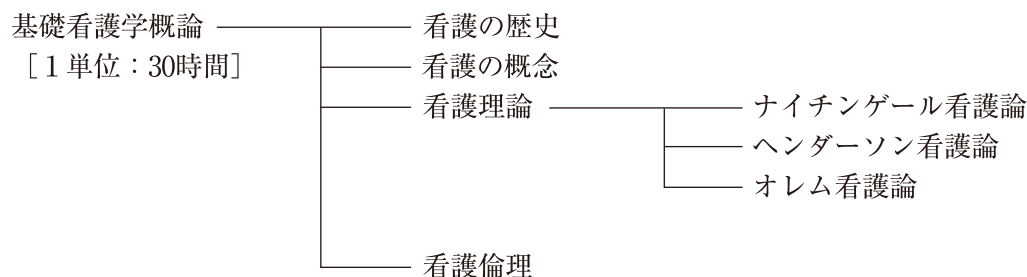
基礎看護学Ⅴでは、健康障害をもつ対象の理解と状態に応じた看護を学ぶ。経過別・主要症状別・治療別の視点から、看護実践に活用できるような対象の理解およびその視点ごとの看護の方法を理解する。特に症状別看護では、取りあげる症状を限定し発生のメカニズムと基本的な看護方法を関連させて考える過程を学び、他の症状に対しても適応できる能力を養う。

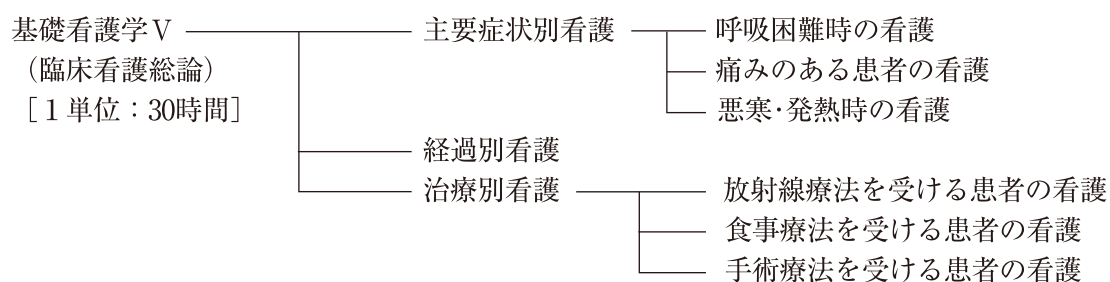
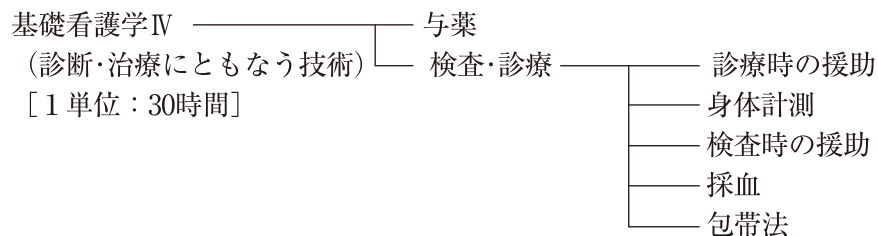
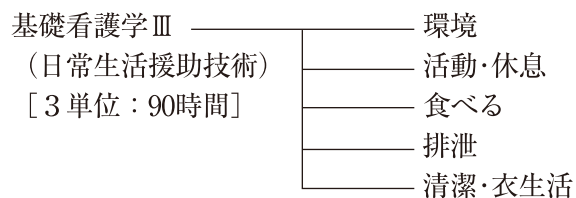
基礎看護技術に関しては、「技術テスト」を設け、技術の習得をはかることとした。（巻末の「基礎看護学における技術テストについて」参照）

看護研究では、看護に対する考え方を深化・発展させ自ら学び続ける基礎的能力を養うため、看護研究の基礎を学ぶ。

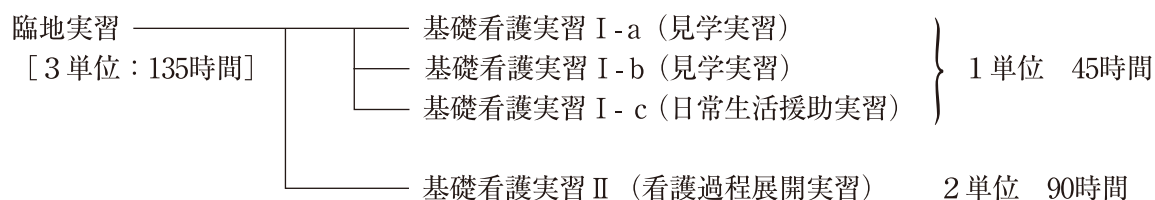
基礎看護学実習では、対象の基本的欲求を充足できるための援助技術の活用や看護を実践するために必要な問題解決技術を活用する能力を養うとともに人間の多様な価値観を尊重した態度を学ぶ。

<基礎看護学の構成>





看護研究
[1単位：30時間]



	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学概論 「看護の歴史」 「看護の概念」 「看護倫理」	1 単位 (30時間) のうち14時間	1 年前期	講義
担当教員	佐藤玉枝 (実務経験者)	保健機関において保健師としての経験がある。		

1. 授業概要

看護の歴史の変遷や概念を学ぶことで看護の本質を知り、看護学を学ぶ導入とする。

2. 到達目標

<看護の歴史><看護の概念>

時代の変遷の中で看護の本質と役割を学ぶ。

わが国の看護教育制度と教育の特殊性について理解する。

<看護倫理>

看護倫理が求められるようになった社会的背景を理解し、わが国における看護倫理確立の経緯および、専門職として看護師に求められる看護倫理について学ぶ。

3. 内容

<看護の歴史>…2h

- 1) 看護の起源と本質
- 2) 宗教と看護
- 3) わが国の看護の歴史
- 4) 看護教育制度の変遷

<看護の概念>…8h

- 1) 看護の概念と構成要素
- 2) 看護の対象
- 3) 看護の目的と役割
- 4) 看護の理念
- 5) 国際看護師協会の定義
- 6) 定義の進展

<看護倫理>…4h

- 1) 職業倫理としての看護倫理
- 2) 看護倫理の経緯
- 3) 看護実践上の倫理的概念
 - ・アドボガシー ・アカウンタビリティ
 - ・協働 ・ケアリング
- 4) 看護倫理の策定
- 5) 看護職者の自立性と看護倫理

4. 授業計画

コマ	内 容
1	<看護の歴史> 1) 看護の起源と本質 2) 宗教と看護 3) 我が国の看護の歴史 4) 看護教育制度の変遷
2～5	<看護の概念> 1) 看護の概念と構成要素 2) 看護の対象 3) 看護の目的と役割 4) 看護の理念 5) 国際看護師協会の定義 6) 定義の進展

6～7	<看護倫理> 1) 職業倫理としての看護倫理 2) 看護倫理の経緯 3) 看護実践上の倫理的概念 4) 看護倫理の策定 5) 看護速射の自立性と看護倫理
-----	---

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学概論を100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞ 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕 看護学概論：医学書院
 ＜参考文献＞

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野 I	基礎看護学概論 「看護理論」	1 単位 (30時間) のうち16時間	1 年前期	講義
担当教員	大塚里美 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		
	原山路乃 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		
	村上朝代 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

生き、かつ生活する人間の健康問題に焦点をあて問題解決する看護学は、実践の科学（サイエンス）及び芸術（アート）といわれる。そのため、看護学の考え方の根幹となるパラダイムである人間・健康・社会・看護について理解し、看護的視点が持てるように学ぶ必要がある。

これに対して、人間理解のための理論的枠組みは、看護論によって異なる。この理論枠組みの多様性を理解することによって、そこから個人や家族が持つ看護ニーズを判断し適切な援助が導き出されるのである。このような観点から、まず人間と環境および健康と看護について学び、さらにナイチンゲール・ヘンダーソン・オレムの看護論を理解することによって、看護の本質と基礎的な考え方を学ぶことを目的とする。

2. 到達目標

1）人間を、身体的・心理的・社会的側面を持つ総合体として理解する。

2）人間と環境との相互関係、人間に影響する内部環境、外部環境について理解する。

3）人間の生命をライフサイクルと健康を関連づけて捉え、健康の意義、意味について理解する。

4）看護の目的と役割および保健・医療・福祉サービスを通して、看護の本質を理解する。

5）ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレムの看護論を理解し、看護の本質を知ることができる。

6）ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレムの看護の考え方を通して、自己の看護観を養う。

3. 内容

1）ナイチンゲール看護論…6h

2）ヘンダーソン看護論…5h

3）オレム看護論…5h

4. 授業計画

コマ	内 容	担 当
1～3	ナイチンゲール看護論 1）ナイチンゲールの歴史 2）看護の本質 3）ナイチンゲール看護論の構造 4）看護とは、人間とは、健康とは 5）「看護覚え書」を構造化して読む 6）看護のものさし 7）ナイチンゲールの言葉	大塚 里美
4～6	ヘンダーソン看護論 1）ヘンダーソンの生きた時代、経歴、業績 2）ヘンダーソンの考える看護・人間・健康・環境とは 3）ヘンダーソンの考える看護の方法 4）基本的欲求、基本的看護とは	原山 路乃
7～9	オレム看護論 1）オレム看護論の概要 2）オレムに影響を与えた理論 3）オレム看護論の理論構成 4）セルフケア理論	村上朝代

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学概論を100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞

ナイチンゲール看護論 …… 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕 看護学概論：医学書院
看護覚書 （F.ナイチンゲール著 湯楨ます他訳）：現代社
ナイチンゲール看護論入門 （金井一薫著）：現代社

ヘンダーソン看護論 …… 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕 看護学概論：医学書院
ヘンダーソン・ゴードンの考え方に基づく実践看護アセスメント
（渡邊トシ子編）：廣川書店

看護の基本となるもの：日本看護協会出版会

オレム看護論 …………… オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開
（宇佐美しおり他）：廣川書店

＜参考文献＞

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅰ 「技術の概念」 「観察・記録・報告」 「コミュニケーション」	2単位(60時間) のうち18時間	1年前期	講義
担当教員	村上朝代(実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

看護技術は、看護の対象者自身が自立した快適な生活ができるように援助する技術である。安全・安楽の概念は看護技術の基本原則となる概念であり、あらゆる援助技術において配慮すべきものとして捉える。

この単元では、看護技術の概念と看護における技術の位置付け・基本原則を理解することで、看護技術を学ぶための心構えや基本となる考え方を養う。さらにはあらゆる場面において看護行為に共通する基本技術として、対象理解と看護実践を効果的にするためのコミュニケーション、観察、記録、報告の基本について学ぶことを目的とする。

2. 到達目標

- 1) 看護技術の特殊性を理解する。
- 2) 看護技術の基本原則を理解する。
- 3) 看護の対象を総合的に把握するための観察を学ぶ。
- 4) 看護記録の意義・重要性・管理を学ぶ。
- 5) 看護における報告の意義・条件を学ぶ。
- 6) コミュニケーションの機能を理解し、効果的なコミュニケーション技術について学ぶ。

3. 内容

＜技術の概念＞…6h

- 1) 看護技術の特徴
- 2) 基本原則
- 3) 技術の構成
- 4) 技術遂行のために求められる能力

＜観察・記録・報告＞…4h

- 1) 看護における観察の意義
- 2) 看護における報告の意義
- 3) 看護記録の目的、意義、法的規定

＜コミュニケーション＞…8h

- 1) コミュニケーションの意義
- 2) コミュニケーションの基礎
- 3) 効果的なコミュニケーション
- 4) 看護場面におけるコミュニケーション

4. 授業計画

コマ	内 容
1～3	＜技術の概念＞ 1) 看護技術の特徴 2) 基本原則 3) 技術の構成 4) 技術遂行のために求められる能力
4～5	＜観察・記録・報告＞ 1) 看護における観察の意義 2) 看護における報告の意義
6～9	3) 看護記録の目的、意義、法的規定 ＜コミュニケーション＞ 1) コミュニケーションの意義 2) コミュニケーションの基礎 3) 効果的なコミュニケーション 4) 看護場面におけるコミュニケーション

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅰを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト>

技術の概念 ……	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕	基礎看護技術Ⅰ：医学書院
観察・記録・報告 ……	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕	基礎看護技術Ⅰ：医学書院
	基礎看護技術（阿曾洋子監修）	：医学書院
コミュニケーション ……	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕	基礎看護技術Ⅰ：医学書院
	基礎看護技術（阿曾洋子監修）	：医学書院

<参考文献>

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅰ 「感染防止」	2単位(60時間) のうち14時間	1年前期 ～後期	講義・演習
担当教員	和田典子(実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。 感染管理認定看護師の資格を有する。		

1. 授業概要

看護場面における安全を守る共通基本技術として、感染防止の基本を学ぶ。

2. 到達目標

消毒・滅菌法、感染経路遮断に必要な知識を習得する。
感染予防のための基本的技術を習得する。

3. 内容

1) 感染とは
2) 感染予防の三原則
3) 感染予防の方法
4) 医療廃棄物の取り扱い
5) スタンダードプリコーション
6) 消毒と滅菌
7) 隔離法、手洗い、ガウンテクニック
8) 無菌操作、滅菌物の取り扱い
9) 創傷管理

4. 授業計画

コマ	内 容
1	1) 感染とは 2) 感染予防の三原則
2	3) 感染予防の方法 4) 医療廃棄物の取り扱い
3	5) スタンダードプリコーション 6) 消毒と滅菌
4	7) 隔離法、手洗い、ガウンテクニック
5	8) 無菌操作、滅菌物の取り扱い
6	演習 衛生的手洗い、ガウンテクニック、無菌操作、滅菌物の取り扱い、 滅菌手袋の装着
7	9) 創傷管理

5. 評価方法

終講試験(100点満点)によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅰを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト> 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ：医学書院
基礎看護技術(阿曾洋子監修)：医学書院
看護技術プラクティス：学研

<参考文献> インфекションコントロール：メディカ出版

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅰ 「バイタルサイン測定」	2単位(60時間) のうち12時間	1年前期	講義・演習
担当教員	戸崎美穂(実務経験者) 看護師・保健師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

多くの看護場面において、対象の状態把握のために用いられる基本的な技術として、バイタルサイン測定の基礎を学ぶ。

2. 到達目標

1) バイタルサイン観察の意義が理解できる。

2) 呼吸・脈拍・血圧の正常と異常が判断できる。

3) バイタルサインを正確に測定できる。

3. 内容

1) バイタルサインとは

2) バイタルサインの重要性

3) バイタルサインの観察

① 呼吸とは

② 呼吸のメカニズム

③ 呼吸の正常と異常

④ 脈拍とは

⑤ 脈拍の正常と異常

⑥ 血圧とは

⑦ 血圧の正常と異常

⑧ 体温とは

⑨ 体温の正常と異常

4) バイタルサインの測定

(体温、呼吸、脈拍、血圧、一般状態)

演習：

①バイタルサイン測定

4. 授業計画

コマ	内 容
1	1) バイタルサインとは 2) バイタルサインの重要性
2～4	3) バイタルサインの観察 ①呼吸とは ②呼吸のメカニズム ③呼吸の正常と異常 ④脈拍とは ⑤脈拍の正常と異常 ⑥血圧とは ⑦血圧の正常と異常 ⑧体温とは ⑨体温の正常と異常
5～6	4) バイタルサインの測定 演習

5. 評価方法

終講試験(100点満点)によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅰを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ：医学書院

看護技術プラクティス：学研

基礎看護技術(阿曾洋子監修)：医学書院

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅰ 「看護過程」	2単位(60時間) のうち12時間	1年後期	講義
担当教員	大塚里美(実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

看護が専門職であるために、看護行為は科学的で系統的であることが求められる。看護過程は、広義には看護を実践するための道筋であり、日々の看護実践を科学的にすることのできる道具である。
本単元では、看護過程を展開する技術を身につけ科学的な問題解決能力を養うことをねらいとする。

2. 到達目標

看護過程の構成要素と展開の方法を理解することができる。

3. 内容

1) 看護理論と看護過程との関連
2) 看護過程の構成要素
3) 看護過程の展開(アセスメント・看護問題・計画立案・実施・評価)

4. 授業計画

コマ	内 容
1～2	1) 看護理論と看護過程との関連
3～4	2) 看護過程の構成要素
5～6	3) 看護過程の展開 アセスメント・看護問題・計画立案・実施・評価

5. 評価方法

終講試験(100点満点)によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅰを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト> 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ：医学書院
基礎看護技術(阿曾洋子監修)：医学書院

<参考文献>

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅱ 「指導技術」	1 単位 (30時間) のうち16時間	1 年前期	講義、演習
担当教員	戸崎美穂 (実務経験者) 看護師・保健師			
	医療機関において看護師としての経験がある。			

1. 授業概要

看護の機能の一つである「指導」の必要性和指導方法について理解する。

2. 到達目標

1) 指導の目的、看護師の役割がわかる。

2) 指導計画と評価の必要性がわかる。

3) 教育・指導の技法がわかる。

4) 個別指導の過程がわかる。

5) 集団指導の過程がわかる。

6) 対象に適した指導計画を立案し、一日体験入学で集団指導を実施することができる。

3. 内容

1) 指導とは

2) 患者教育の過程

3) 教育・指導の方法

4) 媒体の作り方

4. 授業計画

コマ	内 容
1	1) 指導とは
2	2) 患者教育の過程
3～6	3) 教育・指導の方法 個別指導 面接指導 集団指導 訪問指導
	4) 媒体の作り方
7～8	5) 集団指導の実際 演習

5. 評価方法

終講試験 (100点満点) によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅱを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト>

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ：医学書院
基礎看護技術 (阿曾洋子監修) ： 医学書院

<参考文献>

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅱ 「フィジカルアセスメント」	1 単位 (30時間) のうち16時間	1 年前期	講義、演習
担当教員	安部涼子（実務経験者） 看護師 医療機関において看護師としての経験がある。特定看護師の資格を有している。			

1. 授業概要

フィジカルアセスメントに関する基本的な知識と技術を習得する。

2. 到達目標

1) フィジカルアセスメントの必要性が理解できる。

2) フィジカルアセスメント（問診、視診、触診、打診、聴診）の基本技術がわかる。

3) フィジカルアセスメントの所見の記述方法がわかる。

3. 内容

1) フィジカルアセスメントの概念

2) 全身状態・皮膚・リンパ節・頭部のフィジカルアセスメント

3) 呼吸器系のフィジカルアセスメント

4) 循環器系のフィジカルアセスメント

5) 腹部のフィジカルアセスメント

6) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント

7) 中枢神経系のフィジカルアセスメント

演習：フィジカルアセスメント（呼吸音、心音、眼所見、腹部聴診、触診、神経所見）

4. 授業計画

コマ	内 容
1	1) フィジカルアセスメントの概念
2～6	2) 全身状態・皮膚・リンパ節・頭部のフィジカルアセスメント 3) 呼吸器系のフィジカルアセスメント 4) 循環器系のフィジカルアセスメント 5) 腹部のフィジカルアセスメント
7～8	6) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 7) 中枢神経系のフィジカルアセスメント 8) 演習：フィジカルアセスメント（呼吸音、心音、眼所見、腹部聴診、触診、神経所見）

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅱを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト> はじめてのフィジカルケアアセスメント：メヂカルフレンド社
フィジカルアセスメントワークブック：医学書院

<参考文献> フィジカルアセスメントガイドブック：医学書院

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅲ 「環境」	3単位(90時間) のうち16時間	1年前期	講義・演習
担当教員	高野 唯(実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

日常生活における環境の意義を理解し、安全・安楽を考慮した援助を実践する能力を養う。

2. 到達目標

1) 環境調整の意義について理解できる。

2) 環境調整の方法を理解できる。

3) 清潔で崩れにくい病床の作成ができる。

3. 内容

1) 環境とは

2) 環境調整の意義

3) 患者の生活環境

4) 病床の作り方と整備

①クローズドベッド

②オープンベッド

演習：

①ベッドメイキング、病床整備

②臥床患者のリネン交換

デモンストレーション： 包布の扱い方

4. 授業計画

コマ	内 容
1～6	1) 環境とは 2) 環境調整の意義 3) 患者の生活環境 4) 病床の作り方と整備
7	演習：ベッドメイキング
8	演習：臥床患者のリネン交換

5. 評価方法

終講試験(100点満点)によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅲを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト>

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ：医学書院
看護技術プラクティス：学研
基礎看護技術(阿曾洋子監修)：医学書院

<参考文献>

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅲ 「活動・休息」	3単位(90時間) のうち20時間	1年前期	講義・演習
担当教員	牧 三貴(実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

日常生活における活動・休息の意義を理解し、安全・安楽を考慮した援助を実践する能力を養う。

2. 到達目標

1) 人間にとっての活動と休息の意義を理解できる。

2) 活動・休息に対する援助の方法が理解できる。

3) 活動・休息に関する基本的な援助技術を身につける。

3. 内容

1) 肢位とは、姿勢とは、体位とは

2) 体位の種類

3) 安楽な体位の工夫

4) 体位変換の意義

5) 体位変換の原則と方法、留意点
(ボディメカニクス・キネステティクを含む)

6) 移送・移動の定義、方法、留意点
①車椅子 ②ストレッチャー ③歩行器

7) 活動の意義、活動の援助
(廃用性症候群予防、褥創予防)

8) 眠る・休息するとは、睡眠の援助

演習：

①安楽な姿勢、体位変換(基本)

②体位変換(応用)、移送・移動(車椅子、ストレッチャー)

4. 授業計画

コマ	内 容
1～8	1) 肢位とは、姿勢とは、体位とは 2) 体位の種類 3) 安楽な体位の工夫 4) 体位変換の意義 5) 体位変換の原則と方法、留意点 6) 移送・移動の定義、方法、留意点 7) 活動の意義、活動の援助 8) 眠る・休息するとは、睡眠の援助
9	演習：安楽な姿勢 体位変換(基本)
10	演習：体位変換(応用) 移送・移動

5. 評価方法

終講試験(100点満点)によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅲを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト> 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ：医学書院
看護技術プラクティス：学研
基礎看護技術(阿曾洋子監修)：医学書院

<参考文献>

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅲ 「食べる」	3単位(90時間) のうち12時間	1年前期	講義・演習
担当教員	大塚里美(実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

日常生活における食事の意義を理解し、安全・安楽を考慮した援助を実践する能力を養う。

2. 到達目標

1) 食事の意義を理解できる。

2) 食事に関する基礎知識を習得する。

3) 食事の援助方法を理解できる。

4) 食事介助、経管栄養(経鼻)の基本動作が行えるようになる。

3. 内容

1) 食べることの意義

2) 食物の意義、栄養成分

3) 消化と吸収

4) 摂食・嚥下のメカニズム

5) 健康障害時の援助

・食事介助の目的、方法、留意点

6) 食事療法時の援助

・経管栄養法

・高カロリー輸液法

演習：①食事介助、歯磨き介助

②経鼻カテーテル挿入、経管栄養の注入・観察

4. 授業計画

コマ	内 容
1～4	1) 食べることの意義 2) 食物の意義、栄養成分 3) 消化と吸収 4) 摂食・嚥下のメカニズム 5) 健康障害時の援助 ・食事介助の目的、方法、留意点 6) 食事療法時の援助 ・経管栄養法 ・高カロリー輸液法
5	演習：食事介助
6	演習：経管栄養法

5. 評価方法

終講試験(100点満点)によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅲを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト>

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ：医学書院

看護技術プラクティス：学研

基礎看護技術(阿曾洋子監修)：医学書院

<参考文献>

看護技術 講義・演習ノート、上巻、日常生活援助技術篇(山口瑞穂子監修)：医学芸術社

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅲ 「排泄」	3単位(90時間) のうち18時間	1年前期	講義・演習
担当教員	村上朝代(実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

日常生活における排泄の意義を理解し、安全・安楽を考慮した援助を実践する能力を養う。

2. 到達目標

1) 排泄の意義が理解できる。

2) 排泄のメカニズム、正常・異常が理解できる。

3) 排泄の援助方法が理解できる。

4) 排泄の援助技術の基礎を身につけることができる。

3. 内容

1) 排泄の定義・意義

2) 排尿・排便のメカニズム

3) 排泄および排泄行動の正常・異常

4) 排泄障害時の援助
・尿器　・便器　・オムツ

5) 導尿の目的、種類、方法

6) 浣腸の目的、種類、方法

7) 摘便の目的、方法

演習：①一時的導尿

②坐薬挿入、グリセリン浣腸、尿器のあて方(体験演習)

③便器挿入、陰部洗浄、おむつ交換

デモンストラーション：　留置カテーテル挿入、固定

4. 授業計画

コマ	内　　容
1～5	1) 排泄の定義・意義 2) 排尿・排便のメカニズム 3) 排泄および排泄行動の正常・異常 4) 排泄障害時の援助 ・尿器　・便器　・オムツ 5) 導尿の目的、種類、方法 6) 浣腸の目的、種類、方法
6	体験演習：坐薬挿入、グリセリン浣腸
7	演習：便器の挿入、陰部洗浄、オムツ交換
8	7) 導尿の目的、種類、方法
9	演習：一時的導尿

5. 評価方法

終講試験(100点満点)によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅲを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト>

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔3〕　基礎看護技術Ⅱ：医学書院
看護技術プラクティス：学研
基礎看護技術(阿曾洋子監修)　：医学書院

<参考文献>

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅲ 「清潔・衣生活」	3 単位 (90時間) のうち24時間	1 年前期	講義・演習
担当教員	原山路乃 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

日常生活における清潔保持および衣生活の意義を理解し、安全・安楽を考慮した援助を実践する能力を養う。

2. 到達目標

1) 清潔、衣生活の意義が理解できる。
2) 病衣の選択、衣服の着脱の方法が理解できる。
3) 清潔保持のための援助方法が理解できる。
4) 臥床患者の洗髪、全身清拭、寝衣交換が行える。

3. 内容

1) 健康生活における清潔の意義
2) 健康障害時の清潔
3) 清潔を保持するための援助技術
①入浴、シャワー浴介助
②全身および部分清拭
③手浴、足浴、陰部洗浄
④洗髪・洗髪器・洗髪車
⑤口腔ケア
4) 衣服を用いる意義
5) 望ましい衣服の条件
6) 衣服の着脱
演習：①全身清拭、寝衣交換
②洗髪 (洗髪器)
デモンストレーション：
・陰部洗浄 ・手浴、足浴 ・点滴中の寝衣交換
体験学習：爪切り、ひげそり

4. 授業計画

コマ	内 容
1～7	1) 健康生活における清潔の意義 2) 健康障害時の清潔 3) 清潔を保持するための援助技術 ①入浴、シャワー浴 ②全身および部分清拭 ③手浴、足浴、陰部洗浄 ④洗髪 ⑤口腔ケア
8	4) 衣服を用いる意義 5) 望ましい衣服の条件 6) 衣服の着脱
9～10	演習：洗髪
11～12	演習：身体清拭、寝衣交換

5. 評価方法

終講試験 (100点満点) によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅲを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト> 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ：医学書院
基礎・臨床 看護技術：医学書院
基礎看護技術 (阿曾洋子監修)：医学書院

<参考文献>

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅳ 「与薬」	1 単位 (30時間) のうち20時間	1 年後期	講義・演習
担当教員	牧 三貴 (実務経験者) 看護師 医療機関において看護師としての経験がある。			

1. 授業概要

治療に伴う援助技術として安全・安楽に与薬が行えるための基礎を学ぶ。

2. 到達目標

1) 与薬の目的・種類・機序について理解できる。
2) 与薬における看護師の役割および事故予防策が理解できる。
3) それぞれの与薬方法について理解できる。
4) 点滴静脈内注射、筋肉内注射、皮下注射の基本的動作が行える。

3. 内容

1) 与薬とは、与薬の目的
2) 与薬の種類と機序
①経口
②注射
(静脈内、筋肉内、皮下、皮内、I V H)
③塗布
④塗擦
⑤座薬
⑥吸入
3) 与薬方法と留意事項
(輸液ポンプ、シリンジポンプを含む)
4) 与薬にともなう事故と予防策

演習：①点滴静脈内注射
②筋肉内注射、皮下注射

4. 授業計画

コマ	内 容
1～5	1) 与薬とは、与薬の目的 2) 与薬の種類と機序 ①経口 ②注射 (静脈内、筋肉内、皮下、皮内、I V H) ③塗布 ④塗擦 ⑤座薬 ⑥吸入 3) 与薬方法と留意事項 4) 与薬にともなう事故と予防策
6～7	演習：筋肉内注射、皮下注射
8～9	演習：点滴静脈内注射

5. 評価方法

終講試験 (100点満点) によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅳを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト>

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ：医学書院
看護技術プラクティス：学研
基礎看護技術 (阿曾洋子監修)：医学書院

<参考文献>

注射の基本がよくわかる本 (石塚睦子、黒坂知子著)：照林社
看護技術 講義・演習ノート、下巻、診療に伴う看護技術篇 (山口瑞穂子監修)：医学芸術社

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅳ 「検査・診療」	1 単位 (30時間) のうち10時間	1 年後期	講義・演習
担当教員	高野 唯 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

診断・治療の補助技術として、検査・診療時の援助方法を学ぶ。

2. 到達目標

1) 診察における看護師の役割、診療時の援助方法について理解できる。

2) 検査時における看護師の役割、主な検査時の援助方法について理解できる。

3) シミュレーターを用いた採血が行える。

4) 身体計測、包帯法の基本技術を習得する。

3. 内容

1) 診察とは、診察の目的、診療時の援助

2) 身体各部計測
(身長、体重、胸囲、腹囲、座高、視力、握力)

3) 検査の意義と種類、検体の取り扱い

①検体検査

- ・尿検査 (尿比重測定・試験紙による簡易検査)
- ・糞便検査
- ・喀痰検査
- ・血液検査

②生体検査

- ・X線検査 ・消化管造影
- ・C T ・MR I
- ・内視鏡検査 ・超音波検査
- ・心電図 ・呼吸機能

4) 採血

5) 包帯法

演習：①採血

②身体計測、包帯法

デモンストラーション：尿比重測定

4. 授業計画

コマ	内 容
1～3	1) 診察とは、診察の目的、診療時の援助 2) 身体各部計測 3) 検査の意義と種類、検体の取り扱い 4) 採血 5) 包帯法
4	演習：身体計測、包帯法
5	演習：採血

5. 評価方法

終講試験 (100点満点) によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅳを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト>

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ：医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ：医学書院

看護技術プラクティス：学研

基礎看護技術 (阿曾洋子監修)：医学書院

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅴ 「主要症状別看護」 「経過別看護」	1 単位 (30時間) のうち14時間	1 年後期	講義・演習
担当教員	徳丸昌子 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

〈主要症状別看護〉

看護を展開する際、様々な症状をもつ患者に対し、その症状による苦痛を緩和することが求められる。そのため、その症状がなぜおこっているのか、その誘因を明らかにし症状緩和につながるような的確な看護を行うことが望ましい。しかし、明らかな原因がすぐに分からないこともあり、その間にも症状に伴う苦痛緩和の援助が行われなければならない。そこで、この単元では、主要症状のメカニズムと基本的看護の方法を学ぶ。ここではいくつかの症状を取りあげ、症状に対応するための考え方や基本的な援助方法を学習するためのプロセスを理解することをねらいとする。

〈経過別看護〉

経過別看護の概念・患者の特徴・看護の役割がわかる。

2. 到達目標

〈主要症状別看護〉

1) 呼吸困難のメカニズムと援助方法について理解できる。
2) 吸引、酸素吸入、酸素ボンベの取り扱いの基本動作ができるようになる。
3) 痛みのメカニズムと援助方法について理解できる。
4) 悪寒・発熱のメカニズムと援助方法について理解できる。
5) 温罨法、冷罨法の基本技術を習得する。

〈経過別看護〉

経過別看護の概念・患者の特徴・看護の役割が理解できる。

3. 内容

〈主要症状別看護〉…10 h

1) 呼吸困難時の看護
(吸引、吸入、酸素吸入、体位の工夫)

2) 痛みのある患者の看護

3) 悪寒・発熱時の看護
(温罨法、冷罨法)

演習：①温罨法、冷罨法

②吸引(口腔内、鼻腔内、気管内)、酸素吸入、酸素ボンベの取り扱い

デモンストレーション：
・薬液吸入 ・パルスオキシメーター

〈経過別看護〉…4 h

1) 経過別看護とは

2) 各経過の定義(急性期、回復期、慢性期、リハビリテーション期、周手術期、終末期)

3) 経過別の患者のニーズと看護の特徴

4. 授業計画

コマ	内 容
1～3	〈主要症状別看護〉 1) 呼吸困難時の看護 吸引、吸入、酸素吸入、体位の工夫 2) 痛みのある患者の看護 3) 悪寒・発熱時の看護
4	演習：吸引(口腔内、鼻腔内、気管内)、酸素吸入、薬液吸入、
5	パルスオキシメーター 体験演習：1) 温罨法、冷罨法 2) 吸引、吸入、酸素ボンベの取り扱い

6、7	〈経過別看護〉 1) 経過別看護とは 2) 各経過の定義 急性期、回復期、慢性期、リハビリテーション期、周手術期、終末期 3) 経過別の患者のニーズと看護の特徴
-----	--

5. 評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅴを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞ 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論：医学書院
看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント：学研

＜参考文献＞ 看護技術 講義・演習ノート、下巻、診療に伴う看護技術篇（山口瑞穂子監修：医学芸術社）

	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅴ 「治療別看護」	1 単位 (30時間) のうち16時間	1 年後期	講義・演習
担当教員	右田良恵 (実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1. 授業概要

治療を受ける患者の特徴を理解し、治療が円滑に行われるための看護の役割・方法を学ぶ。

2. 到達目標

1) 放射線療法を受ける患者の看護が理解できる。
2) 食事療法を受ける患者の看護が理解できる。
3) 手術療法を受ける患者の基本的看護が理解できる。

3. 内容

1) 放射線療法を受ける患者の看護
①放射線防護と看護管理
②治療別看護 (・体外照射療法 ・密封小線源療法 ・非密封小線源療法)
2) 食事療法を受ける患者の看護
(胃ろう・腸ろう栄養、中心静脈栄養法)
*輸液ポンプの取り扱いを含む
3) 手術療法を受ける患者の看護
①術前患者の看護 (心理面の援助、術前オリエンテーション、術前訓練、術前処置)
②術中患者の看護 (手術室における看護師の役割)
③術後患者の看護 (生体反応、合併症予防、創傷、ドレーン管理、心理的支援)

演習：
①輸液ポンプの使い方
②術前訓練

デモンストラーション：
・シリンジポンプの使い方 ・サージカルストッキングの装着
・除毛・臍処置、OP 後ベッド作成

4. 授業計画

コマ	内 容
1～2	1) 放射線療法を受ける患者の看護 ・放射線防護と看護管理 ・治療別看護 (・体外照射療法 ・密封小線源療法 ・非密封小線源療法)
3～4	2) 食事療法を受ける患者の看護 ・胃ろう・腸ろう栄養、中心静脈栄養法
5～6	3) 手術療法を受ける患者の看護 ①術前患者の看護 (心理面の援助、術前オリエンテーション、術前訓練、術前処置) ②術中患者の看護 (手術室における看護師の役割) ③術後患者の看護 (生体反応、合併症予防、創傷、ドレーン管理、心理的支援)
7～8	演習：シリンジポンプの使い方 ・サージカルストッキングの装着・除毛・臍処置、OP 後ベッド作成

5. 評価方法

終講試験 (100点満点) によって行う。他の単元と集計し、基礎看護学Ⅴを100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

6. テキスト・参考文献

<使用テキスト> 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論：医学書院
看護技術プラクティス：学研
よくわかる周手術期看護：学研

<参考文献> 周手術期看護：医歯薬出版

専門分野Ⅰ	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
	看護研究	1 単位 (30時間)	2 年前期 ～後期	講義、演習
担当教員	大塚里美 他 (実務経験者) 看護師 医療機関において看護師としての経験がある。			

1. 授業概要

看護研究とは、看護者の手によって看護の問題を解決することにより、保健・医療・福祉における看護の独自性を明確にするものである。この科目では、看護に対する科学的知識を深め、看護を発展的に展開できる研究の基礎を学ぶことをねらいとする。

2. 到達目標

- 1) 看護研究の意義と方法を理解する。
- 2) 看護研究に必要な文献検索の方法を理解する。
- 3) 看護研究論文をまとめ、発表することができる。
- 4) 看護研究の講評ができる。

3. 内容

- 1) 看護研究とは
- 2) 看護研究の分類・プロセス
- 3) 看護研究における倫理的問題
- 4) 文献の活用方法
- 5) 研究計画書
- 6) 看護研究論文のまとめ方と書き方
- 7) 看護研究におけるプレゼンテーション
- 8) 講評と評価
- 9) ケーススタディ

4. 授業計画

コマ	内 容
1～10	1) 看護研究とは 2) 看護研究の分類・プロセス 3) 看護研究における倫理的問題 4) 文献の活用方法 5) 研究計画書 6) 看護研究論文のまとめ方と書き方 7) 看護研究におけるプレゼンテーション 8) 講評と評価
11～15	9) ケーススタディ

5. 評価方法

終講試験およびケーススタディの論文の評価によって行う。100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞ わかりやすいケーススタディの進め方：照林社

＜参考文献＞

専門分野Ⅰ	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
	基礎看護学実習Ⅰ	1 単位 (45時間)	1 年前期	演習・実習
担当教員	学内教員 (実務経験者) 看護師			

医療機関において看護師としての経験がある。

1. 授業概要

健康上の問題を持つ対象者と日常生活援助技術を通して、生活者の視点で理解する。日常生活援助技術や人間関係形成について振り返ることによって、基礎看護学実習Ⅱへのスムーズな導入とする。

2. 到達目標

〈基礎看護学実習Ⅰ-a〉

- 1) 介護老人保健施設やグループホームに入所している対象と実際に接することができる。
- 2) 2年生の実習を間近かに見ること、看護学生としての心構えについて考えることができる。

〈基礎看護学実習Ⅰ-b〉

- 1) 医療を受ける対象の医療環境(療養環境)を知る。
- 2) 病院における看護活動の実際を知る。

〈基礎看護学実習Ⅰ-c〉

- 1) 入院前と入院後の生活状況を情報収集し、日常生活を整えるために必要な援助がわかる。
- 2) 看護師とともに日常生活援助を実践し、患者の状態や反応がわかる。
- 3) 実践した日常生活援助を振り返り、学んだこと、今後の課題がわかる。

3. 内容

〈基礎看護学実習Ⅰ-a〉

施設に入所している対象者と実際に接することで、看護学生としての今後のあり方を考える機会とする。

〈基礎看護学実習Ⅰ-b〉

健康障害により入院している対象を取り巻く物的・人的環境を知り、今後の学習活動の動機付けとする。

〈基礎看護学実習Ⅰ-c〉

健康障害を持つ対象者の日常生活を実践する基礎能力を養い、看護の喜びを得る。

4. 授業計画

時 間	区 分	方 法
6 時間×1 日	基礎看護学実習Ⅰ-a	老健施設またはグループホームでの実習
7.5 時間×1 日	基礎看護学実習Ⅰ-b	病院での実習
7.5 時間×5 日	基礎看護学実習Ⅰ-c	病院での実習

5. 評価方法

実習評価表に基づき行う。100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献

専門分野Ⅰ	科目名・単元	単位数(時間数)	開講時期	授業方法
	基礎看護学実習Ⅱ	2単位(90時間)	2年後期	実習
担当教員	学内教員(実務経験者) 看護師		医療機関において看護師としての経験がある。	

1. 授業概要

健康障害をもつ対象の日常生活行動における援助の必要性を判断し、看護を展開する基礎能力を養う。また、対象の看護を通して、看護の喜びを得る。

2. 到達目標

1) 対象を身体面、心理面、社会面からとらえ、科学的根拠に基づいて看護の必要性を考える。

2) 看護計画を立案、実施、評価する過程を通し、対象の個別性を考慮し、状況に応じたよりよい看護を探究する。

3) 対象の看護を、安全・安楽に配慮し、反応を見ながら実施する。

4) 看護の対象者を尊重し、対象や医療チームメンバーとの人間関係を円滑にし、よりよい看護を考えることの重要性を理解する。

3. 内容

1) 患者・家族へ興味関心を持ち、日常生活援助をエビデンスに基づき、安全安楽に実践する。

2) 看護学生として看護活動の基礎となる態度を習得する。

4. 授業計画

時 間	方 法
7.5時間×12日間	臨地実習(病院)

5. 評価方法

実習評価表に基づき行う。100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6. テキスト・参考文献